

令和元年度 友松会総会 【報告】

日時 令和元年 6月 29日(土) 10:00～

会場 小田原お堀端コンベンションホール

友松会スローガン「深まろう 高まろう つながる会員 つながる大学」

～ 新しい時代にふさわしい豊かな活動を ～

＝ 総会次第 ＝

第Ⅰ部 総会

開会のことば 国歌斉唱
物故会員への黙祷 会長あいさつ
来賓祝辞 来賓紹介 祝電披露
会務報告 卒寿会員への記念品贈呈
松沢研究奨励賞贈呈
退任役員等への感謝状贈呈
次期開催ブロックあいさつ 閉会のことば

第Ⅱ部 講演会

講師紹介 講演 お礼のことば

第Ⅲ部 懇親会

開会のことば 実行委員長あいさつ
来賓祝辞 乾杯 歓談
新会員紹介 歓迎のことば
校歌・学生歌斉唱 万歳三唱
閉会のことば

高橋和男会長 あいさつ (要旨)

年号が変わり、友松会も新しい時代にふさわしい歩みを始めています。この節目に小田原の地で長谷部学長始め多くの来賓を迎え総会を開催できることを感謝します。

新役員と共に友松会の充実・発展に全力を尽くします。協力をお願いします。

今後3年間の友松会スローガンは、従来のものに、サブスローガン「新しい時代にふさわしい豊かな活動を」を加えました。豊かな活動を踏み出すには、知恵や行動力を結集し、時代の流れにふさわしい活動を創出しなければなりません。会員の皆様の協力のもと、令和を友松会発展の時代にしましょう。

取り巻く環境は、少子高齢化、高度情報化、グローバル化、価値観の多様化と急激に変化しています。少子化は、学校の統廃合、教職員数の縮減等、学校現場に深刻な問題を招き、国立



系の教員養成学部は再編の危機を迎えています。国の教育予算縮減は、大学の力を弱め、将来を担う人材の可能性を狭めています。

私たち友松会は、母校を支え教育学部の存続に会員一丸となり努力しなくてはなりません。友松会では、卒業生の教員就職率を向上させるため、さらに就職支援活動に力を入れます。

また、卒業した学生会員を各支部が力強くサポートができるよう、支部活動の活性化に力を入れます。組織部を中心に正確な学生会員名簿の作成、学生会員卒業時の所属把握に力を入れ、しっかりサポートできるよう各支部の力を向上させます。

一方、母校の力の向上には資金が必要です。会費納入率の向上や皆様の寄付金が大きな力となります。また、学部の存続・発展に「大学基金」にも協力をお願いします。

総会后、田代先生による「小田原城の今昔物語」の講演や、新装なった小田原城の天守閣見学会も予定されています。

総会開催に尽力を頂いた西湘ブロックの皆様、来賓、会員の皆様の健勝と活躍を祈念します。

▽来賓祝辞▽ (要旨)

横浜国立大学学長 長谷部 勇一 様

令和元年度の友松会総会が盛大に開催され、これからの友松会のあり方はもとより、今後の本学の教育学部あるいは大学院へのご支援をどう進めるかを考えて頂けることに感謝いたします。

今、国立大学は非常に厳しい状況にあります。私は、その中で、一番大事なことは「研究力」だと思っています。今、本学のスローガンとしているものは「グローバルエクセレンス大学を目指して」でございます。これは、研究力を国際水準にしていく。そのことで、国内や世界から優秀な学生を引きつける。



そして、日本の産業界や行政から社会貢献を期待される大学にしていくことが大事だからです。

本学には教育学研究科は学部と研究科だけですが、実質的には、東京学芸大学との連合大学院、博士課程後期の構成大学として、多い時は十名近く入学し、毎年、多くの博士学位を出し、全国の大学の教育学部等の教員として就職しています。教育学の分野でも、日本の教育システムは世界から注目されており、本学でも、日本ベトナム大学に経営学部が協力し、また、日本的な大学の教育システムの輸出という考え方で、タイ、マレーシアなど、今後は中央アジアに広げようという話もあります。工学や経済・経営、そして、教育分野でも日本的な教育システムのグローバルな展開をぜひ進めたいと思っております。

今年度から、国から出される国立大学の運営費交付金のシステムが変わりました。共同研究や委託研究で、企業や自治体からどれくらい外部資金を獲得しているのか。卒業生や地域から寄付金をどれくらい頂いているのか。さらに、教育の人材育成という意味で、卒業生がどう活躍しているのか。いずれの分野も皆さん方のご協力が必須です。まさに、皆さん方や後輩の学校現場での活躍が、運営費交付金に跳ね返ってくる時代になっています。

今後とも本学へのご支援をよろしくお願ひしたいと思います。

一般財団法人富丘会理事長 宮田 芳文 様

教育学部の組織変更で友松会もその対応に努力されていると同様に、富丘会も学部生入学時の会費納入率(10年分)が80%程度に向上し、財政的に安定して、大学への寄付の流れもできてきた。

富丘会では、教育学部の学生の就職相談や模擬面接会などにも対応している。

日経紙に企業での大学のイメージ調査で関東甲信越の大学中、横国大が2位と報道された。富丘会のメンバーも頑張っている。

大学が今後社会にどう貢献するのかを求められている中、同窓会はそれをどう支えるか問われる時代だ。富丘会は、経済人として集まれる会として努力している。

友松会、名教自然会とも連携し、大学の発展に協力したい。

▽卒寿を迎えられた会員への記念品贈呈▽

代表 西湘ブロック 古屋 達夫 様

▽松沢研究奨励賞贈呈▽

【受賞者】

川崎市立新城小学校 鈴木 貴久 教諭
綾瀬市立綾北小学校 見上 慎哉 教諭



∞∞ 講演会 ∞∞

「小田原城の今昔物語」

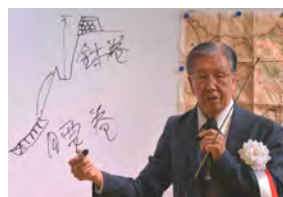
～日本最大の中世城郭北条氏小田原城から

白亜の江戸時代小田原城へ～

講師 田代 道彌 氏

小田原の城と緑を考える会 会長
元神奈川県自然環境保全審議会委員

田代氏は、小田原高校生物部の部長の頃、小田原城周辺の鳥や昆虫の研究をされていたが、土塁と空堀があることから小田原城絵図の調査を始められた。



(講演の要旨)

小田原城の歴史は、相模國足柄地方に展開してきた大森氏から始まる。明応 10(1501)年頃、北条早雲・氏綱父子は大森藤頼を逐って小田原城に入り、以降北条氏時代が繁栄する。城は外周に水の輪状に拡大し、「輪郭式縄張」を完成させた。5代氏直の頃、豊臣秀吉より北条氏の上洛を求めてきたが、これに应ぜず、領内の軍備の拡充や領土の拡大の戦闘を続け小田原城三の丸外郭の外側に空堀と土塁を巡らせ、小田原城と城下を包含した。

∞∞ 懇親会 ∞∞

相原実行委員長よりあいさつ。来賓祝辞、横浜国立大学教育学部副学部長大瀧様。西湘ブロック田中様の発声で乾杯後、歓談。新会員紹介と歓迎のことば。校歌・学生歌斉唱の後、西湘ブロック神保様の音頭により万歳三唱で閉会。

多数の来賓、卒寿を迎えた会員から新任の会員までおよそ 200 人が、和やかに歓談。次回総会は、レンブラントホテル海老名を会場に開催されます。



卒寿者



大瀧副学部長あいさつ



懇親会会場の様子



新会員紹介